

外部資金情報提供

鶴岡工業高等専門学校

校長様

平成 25 年 5 月 11 日

公益財団法人天田財団  
理事長 上田 信之

平成 25 年度研究開発等助成テーマの募集について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当財団は 1987 年の発足以来、金属等の塑性加工及びレーザープロセッシングに必要な技術の調査・研究等に対する助成を主な事業として行っております。今年度も 5 月 1 日より、平成 25 年度助成テーマの募集を開始いたしました。

募集内容につきましては同封のテーマ募集に関するパンフレットの通り、予算総額 7,945 万円で実施いたします。

また、応募の詳しい手順につきましては、別紙「研究者登録方法について」、「助成申請方法について」及び「当財団ホームページ <http://www.amada-for.jp>」にてご案内しておりますので、貴機関当該分野の研究者の皆様へ周知へのご高配を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

より多くの研究者からのご応募をお待ちしております。

敬具

記

【ホームページアドレス : <http://www.amada-for.jp>】

なお、当財団より助成を受けてご研究中（助成期間中）の皆様には、当財団より報告書等の提出方法について別途ご案内させていただきます。

以上

応募に関するお問い合わせ

公益財団法人 天田財団

〒259-1116 神奈川県伊勢原市石田350番地  
TEL (0463)96-3580 FAX (0463)96-3579

詳しい手順につきましては、別紙の研究者登録の手順 及び 当財団ホームページをご覧ください。

(出典：企画室資料)

## 外部資金申請・獲得・受入状況

## 外部資金応募・採択(受入)状況

## 【科学研究費補助金】

項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
応募	20	27	20	30	31
採択	3	4	3	1	4
(継続)	(3)	(4)	(4)	(5)	(5)

## 【補助金】

項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
受入	-	2	2	1	1

## 【共同研究】

項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
受入	10	13	17	18	12

## 【受託研究】

項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
受入	20	19	19	20	6

## 【受託事業】

項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
受入	-	-	-	1	-

※平成25年度：6月1日現在

## 科学研究費補助金—平成25年度分—申請件数

### 【研究代表者】

<b>基盤研究 (B)</b>	1 件
申請者／研究課題名	(物質工学科) 佐藤 貴哉 【イオン液体と高分子の複合による新規低摩擦表面の実現】
<b>基盤研究 (C)</b>	8 件
申請者／研究課題名	(総合科学科) 田辺 英一郎 【英語の使役移動構文の研究】
申請者／研究課題名	(総合科学科) 阿部 秀樹 【Examining the Effectiveness of Phonetic Negotiation of Form in Pronunciation Pedagogy】
申請者／研究課題名	(総合科学科) 野々村 和晃 【アルチン環の森田自己双対性の研究】
申請者／研究課題名	(機械工学科) 田中 浩 【磁粒混合噴流液による高速・自由形状形成Siウェットエッチング加工】
申請者／研究課題名	(機械工学科) 増山 知也 【振動を活用した水田除草攪拌機の設計指針】
申請者／研究課題名	(物質工学科) 瀬川 透 【exo-2, 3-ジフェニル-6,6-ジシアノフルベン二量体の光反応】
申請者／研究課題名	(物質工学科) 佐藤 司 【漂着ごみの再資源化を実践する環境教育プログラムの開発】
申請者／研究課題名	(物質工学科) 南 淳 【植物メタカスペーゼの機能と発現制御】
<b>挑戦的萌芽研究</b>	6 件
申請者／研究課題名	(機械工学科) 五十嵐 幸徳 【超耐熱材料用新16H型シリサイドの開発】
申請者／研究課題名	(電気電子工学科) 神田 和也 【普及型農業用環境計測装置に関する研究】
申請者／研究課題名	(制御情報工学科) 三村 泰成 【仮想現実と現実社会を体感できる斬新な組立構造模型システムの開発】
申請者／研究課題名	(物質工学科) 飯島 政雄 【シクロデキストリン4量体からなる筒状分子カプセルの構築】
申請者／研究課題名	(物質工学科) 佐藤 貴哉 【多価イオン性に着眼した電気二重層キャパシタ用イオン液体の合成とその機能】
申請者／研究課題名	(物質工学科) 戸嶋 茂郎 【金属ガラス合金電析膜による材料表面の高機能化の検討】

### 【研究分担者】

<b>基盤研究 (C)</b>	2 件
申請者／研究課題名	研究代表者 機械工学科 増山 知也 【振動を活用した水田除草攪拌機の設計指針】 研究分担者 機械工学科 教授 本橋 元
申請者／研究課題名	研究代表者 国立大学法人 鳴門教育大学 准教授 畑江 美佳 【「読む」技能に焦点をあてた小・中接続英語カリキュラムの構築】 研究分担者 電気電子工学科 教授 佐藤 淳

## 科学的研究費補助金—平成25年度分— 申請件数

### 【研究代表者】

<b>若手研究(A)</b>	1 件
申請者／ 研究課題名	(物質工学科) 阿部 達雄 【河川水中における放射性物質救出に伴う同位体測定と微生物相の 態系影響】
<b>若手研究(B)</b>	13 件
申請者／ 研究課題名	(総合科学科) 上 條 利 夫 【イオン液体ポリマーブラシを用いたナノ空間制御による新規機能膜の開発】
申請者／ 研究課題名	(総合科学科) 主 濱 祐 二 【Syntactic Phenomena of Japanese Modals: A Minimalist Approach】
申請者／ 研究課題名	(総合科学科) 田 阪 文 規 【巡回群を不足群にもつデイド対応するブロックの研究】
申請者／ 研究課題名	(総合科学科) 比 留 間 浩 介 【体育授業の短距離走におけるスターティングブロック設置方法の スタンダードモデル】
申請者／ 研究課題名	(総合科学科) 長谷川 陽子 【アレント哲学における人権論的再構成——国家と実存の間】
申請者／ 研究課題名	(機械工学科) 矢 吹 益 久 【広範囲で作動することができる真空ポンプの開発】
申請者／ 研究課題名	(機械工学科) 今 野 健 一 【静電誘導を利用した細胞の力学計測法】
申請者／ 研究課題名	(電気電子工学科) 加 藤 健 太 郎 【VLSI高信頼化のためのオンチップ遅滞測定法とそれによるVLSI 高信頼法の開発】
申請者／ 研究課題名	(電気電子工学科) 森 谷 克 彦 【光化学溶液堆積法による環境調和型半導体を用いた三次元構造 太陽電池の開発】
申請者／ 研究課題名	(制御情報工学科) 西 山 勝 彦 【タンパク質の局所的な揺らぎ制御に関する研究】
申請者／ 研究課題名	(制御情報工学科) 内 海 哲 史 【スーパーエコロジーな衛星インターネットデータセンターのネット ワーク基盤技術】
申請者／ 研究課題名	(物質工学科) 三 上 貴 司 【新しい冷却析法に基づく単分散医薬品原薬の製造】
申請者／ 研究課題名	(物質工学科) 平 尾 彰 子 【体内時計応用研究による生活習慣病予防法の開発】

<b>研究代表者 合計 29件</b>	(H.24 27件) (H.23 18件)
---------------------	--------------------------

<b>研究分担者 合計 2件</b>	(H.24 3件) (H.23 2件)
--------------------	------------------------

<b>合計31件</b>	(H.24 30件) (H.23 20件)
--------------	--------------------------

## 科学研究費助成事業(科学研究費補助金) (奨励研究) —平成25年度分— 申請件数

申請者/ 研究課題名	教育研究技術支援センター 技術専門職員 鈴木 徹 【「拡張現実」技術を活用した機械加工実習用図面の製作と教育支援効果】
申請者/ 研究課題名	教育研究技術支援センター 技術職員 本間 康行 【生きる力を育むモノづくり教育方法の研究】
申請者/ 研究課題名	教育研究技術支援センター 技術職員 佐藤 大輔 【セラミックス加工の高速化・高精度化】
申請者/ 研究課題名	教育研究技術支援センター 技術職員 矢作 友弘 【光触媒材料の二酸化チタンに含まれる多形結晶相の定量分析技術の確立】
申請者/ 研究課題名	教育研究技術支援センター 技術職員 米澤 文吾 【蛍光灯応答型光触媒フィルムの創製と実用化に向けた研究】
申請者/ 研究課題名	教育研究技術支援センター 技術職員 鈴木 大介 【DSP 実験実習用教材の構築】
申請者/ 研究課題名	教育研究技術支援センター 技術職員 木村 英人 【人のハンドリングを模した揺動機構を用いたマイクロファンの振動計測】
申請者/ 研究課題名	教育研究技術支援センター 技術職員 一条 洋和 【CNCフライスを用いた教材用平面導波路の製作におけるエンドミルの影響】

合 計

8 件

(出典：企画室資料)

## 外部資金獲得支援

## 外部資金獲得支援

## 科学研究費補助金申請に伴うインセンティブ経費配分

○申請者分		(単位:円)		
学科等	申請者	研究種目	配分額	備考
総合科学科	田邊英一郎	基盤研究(C)		
	阿部 秀樹	基盤研究(C)		
	野々村和晃	基盤研究(C)		
	上條 利夫	若手研究(B)		
	主演 祐二	若手研究(B)		
	田坂 文規	若手研究(B)		
	比留間浩介	若手研究(B)		
機械工学科	長谷川陽子	若手研究(B)		
	田中 浩	基盤研究(C)		
	増山 知也	基盤研究(C)		
	五十嵐幸徳	挑戦的萌芽研究		
	本橋 元	基盤研究(C)		分担者
電気電子工学科	矢吹 益久	若手研究(B)		
	今野 健一	若手研究(B)		
	神田 和也	挑戦的萌芽研究		
	佐藤 淳	基盤研究(C)		分担者
制御情報工学科	加藤健太郎	若手研究(B)		
	森谷 克彦	若手研究(B)		
	三村 泰成	挑戦的萌芽研究		
	西山 勝彦	若手研究(B)		
物質工学科	内海 哲史	若手研究(B)		
	佐藤 貴哉	基盤研究(B)		
		挑戦的萌芽研究		
	瀬川 透	基盤研究(C)		
	佐藤 司	基盤研究(C)		
	南 淳	基盤研究(C)		
	飯島 政雄	挑戦的萌芽研究		
	戸嶋 茂郎	挑戦的萌芽研究		
	阿部 達雄	若手研究(A)		
	三上 貴司	若手研究(B)		
教育研究技術支援センター	平尾 彰子	若手研究(B)		
	鈴木 徹	奨励研究		
	本間 康行	奨励研究		
	佐藤 大輔	奨励研究		
	矢作 友宏	奨励研究		
	米澤 文吾	奨励研究		
	鈴木 大介	奨励研究		
	木村 英人	奨励研究		
計	一条 洋和	奨励研究		
計				
○点検者分				
学科等	点検者	研究種目	配分額	備考
制御情報工学科	宮崎 孝雄			20件
物質工学科	佐藤 貴哉			14件
計				
○研修会講師分				
学科等	講師	研究種目	配分額	備考
物質工学科	佐藤 貴哉			
計				
合計				

鶴岡工業高等専門学校における外部資金に関する間接経費等取扱要項（抜粋）

平成22年11月29日校長室会議

平成22年12月1日運営会議

（趣旨）

第1条 鶴岡工業高等専門学校（以下「本校」という。）における外部資金の間接経費等の取扱いについては、競争的資金の間接経費の執行に係る共通指針（平成13年4月20日付け競争的資金に関する関係府省連絡会申し合わせ）（以下「共通指針」という。）その他別に定めるもののほか、この要項の定めるところによる。

（目的）

第2条 この要項は、本校教職員の研究環境の改善及び学校全体の機能向上を図ることを目的とする。

（定義）

第3条 この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 外部資金 科学研究費補助金（分担金を含む。）などの競争的資金（広く研究開発課題等を募り提案された課題の中から専門家を含む複数の者による科学的・技術的な観点を中心とした評価に基づいて実施すべき課題として採択され研究者等に配分される研究開発資金）、受託研究費、共同研究費、寄附金及びその他の助成金をいう。

（研究費の特別配分）

第10条 校長は、外部資金獲得者に対し、校長裁量経費による研究費の特別配分を行う。

2 前項に定める特別配分は、外部資金の新規獲得1件につき1回とする。ただし、契約上は、継続であるが、研究成果が評価されたことによる場合には、新規扱いとする。

3 第1項に定める特別配分の額は、次のとおりとする。

(1) 受入額が500千円を超え、5,000千円以下のもの 50千円

(2) 受入額が5,000千円を超えるもの 100千円

## 外部資金獲得者に対する研究費の特別配分

(単位:円)

学科等	氏名	外部資金等名	相手先等	受入額	配分類	備考
総合科学科	茨木 貴徳	科学研究費補助金	若手研究(B)			H24～H27
電気電子工学科	神田 和也	補助金	文科省 大学改革推進事業			H23～H24
	内山 潔	奨学寄付金	キャノン財団			
		受託研究	科学技術振興機構			
		計				
物質工学科	三上 貴司	奨学寄付金	ソルト・サイエンス研究財団			
	佐藤 司	奨学寄付金	マエタクノメーロジスリサーチファンド			
	佐藤 貴哉	受託研究	科学技術振興機構(クレスト)			H24～H27
			東北大学(GRENE)			
			NEDO(エマオス)			
			NEDO(積水化学)			H24～H29
		共同研究	HMT			
			スパイパー			
計						
合 計						

(出典:総務課資料)



## 科学研究費補助金説明会

今から申請書を書く人の参考になれば幸いです。

2012/10/16 鶴岡高専  
地域共同テクノセンター 佐藤貴哉

## 平成25年度科学研究費補助金応募に関する注意事項等

**公募要領関係**

- ・公募要領、計画調書、その他最新情報については、学内専用ページの「科研費関係」をご覧ください。
- ・応募にあたっては、「重複応募の制限」に注意してください。

**研究計画調書の編集・作成**

- ・応募内容ファイルの様式は変更できません。また平成24年度の様式から変更されている部分がありますので、必ず今年度（平成25年度 申請用）の様式をダウンロードして作成してください。

記入方法で特に注意していただきたい事項は以下のとおりです。

- ① 基盤研究の研究計画調書において、「研究業績」欄に記入する発表論文の著者名等の表示方法。

→研究代表者には二重下線、研究分担者には一重下線、連携研究者には点線の下線を付してください。

- ② 研究計画調書において、「研究費の応募・受入等の状況・エフォート」欄の記入がある場合。

→「平成25年度の研究経費（期間全体の額）（千円）」欄に、本人が受け入れ自ら使用する研究費の直接経費の額（応募中のものは応募額）を上段に記入し、合わせて研究期間全体で自ら使用する総額（予定額）を下段に記入してください。

また、本人が研究代表者である場合は、当該研究課題の研究期間全体の直接経費総額を、「研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由」欄に記入してください。

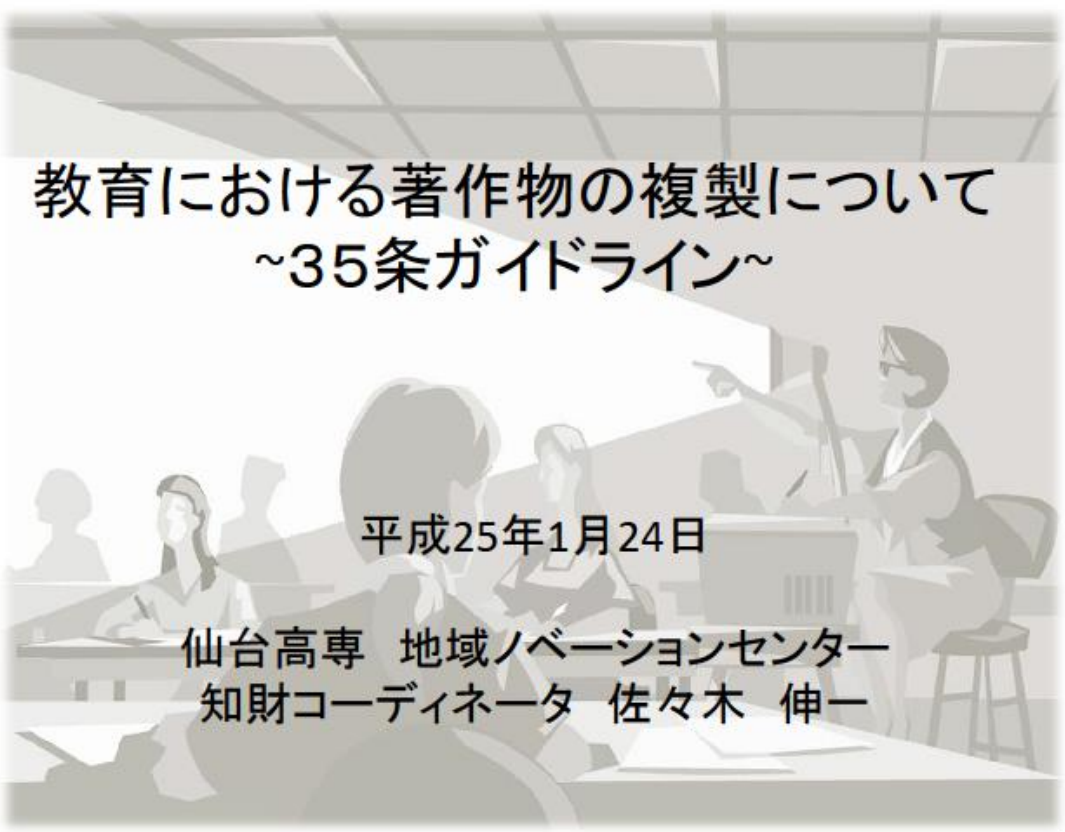
新学術領域研究、特別推進研究、特定領域研究、基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究（A・B）については全てモノクロ印刷で審査に付されるため、印刷した際、内容が不鮮明とならないよう、作成にあたっては留意してください。

**研究計画調書の提出方法**

- ・申請は電子申請となりますが、昨年度より副校長先生（2名）より事前に申請書の内容を確認していただいておりますので、下記の提出期限までに一旦企画室まで紙媒体により一部ご提出ください。電子申請画面は、一時保存状態にしてください。副校長先生の確認が終了し、事務側においても確認を行います。修正等願います場合は、一旦申請者の方にご連絡いたします。再度修正いただいたものをご提出いただき、全て内容をチェックし終了した後、各教員等の方へ修正がなかった方も含めまして、企画室より電子申請確定の依頼を行いますので、そこで電子申請の最終処理を行っていただき、提出（完了）となります。

**提出期限：平成24年10月31日（水）17時 企画室企画・連携係まで**

（※提出の際は、両面コピー、ホチキス留めで提出願います。）



# 教育における著作物の複製について ~35条ガイドライン~

平成25年1月24日


仙台高専 地域ノベーションセンター  
知財コーディネータ 佐々木 伸一

1

## ●全教職員向け／全5年生・専攻科生対象●

# 知的財産講習会

簡単な特許の基礎と、企業が特許を保有する目的について学ぶ講習会です。また企業での特許推進活動に技術者がどのように対処していくかという点について、先行技術調査と発明の捉え方・書き方という観点から、事例をもとにお話いたします。

 **第1部 5年生／専攻科生対象講座 14:00～15:30**  
**「企業における特許推進活動について」**  
 講師:仙台高専 地域イノベーションセンター 知財コーディネーター 青木 誠 氏

1. **特許とは**  
特許の基礎
2. **企業での特許の役割**  
特許取得の目的
3. **先行技術調査の重要性**  
無意味な研究開発あるいは権利侵害の予防
4. **発明の捉え方・書き方**  
発明の種はどこにあるか（業務の結果を発明に結び付ける事例）  
発明における不必要な限定・不明確な言葉の定義などの事例

 **第2部 教職員対象講座 15:40～17:00**  
**「教育における著作物の複製について－35条ガイドライン」**  
 講師:仙台高専 地域イノベーションセンター 知財コーディネーター 佐々木 伸一 氏

教育機関における複製については、他の著作権者の許諾を得ないで著作物を使用することができますが、著作権法では「当該著作物の種類及び用途並びにその複製の部数及び態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りではない」とも記述しています。

どのような場合に著作権者の許可無く利用できるのか、実際に学校の授業で出会うケースなどを取り上げながら、具体的な説明と対策をお話いたします。

**日時：平成25年1月24日（木）**  
 第1部 14:00～15:30 (本科5年生・専攻科生向け)  
 第2部 15:40～17:00 (教職員向け)

**会場：本校大会議室**

**対象：全教職員、全本科5年生、全専攻科生**

**お問合せ先：企画室 内線9453**



(出典：企画室資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の研究活動は学内及び学外から支援を受けて実施されており、各教員の研究活動は教員業績評価委員会では把握している。優秀な教員には表彰、研究費の適正な支援を行い、研究奨励教員の選抜等も行っている。

校長は地域共同テクノセンターレポート、研究シーズ集からも各教員の研究活動を把握している。学校として外部資金獲得を奨励しており、地域共同テクノセンター及び企画室を中心に外部資金獲得に必要な情報提供や説明会等を開催することで支援している。

学校全体の研究活動の活性化に努め、学校として自己点検評価を実施し、外部評価を受け問題点の対策・改善を推進している。

以上により、研究活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校が掲げる研究の目的のなかで、研究成果の教育への還元が行われ、学生への教育内容の改善に寄与している。また、「社会（特に地域社会）への貢献」は、地域共同テクノセンターを中心に活発に行なわれている。その連携は、①鶴岡高専技術振興会、②地域の企業、③地域の高等教育機関に及んでいる。

近年、これらの機関との間で共同・受託研究が多数行われている。また、卒業・専攻科研究テーマの公募、技術相談、コーディネート活動を行い、企業の問題解決に力を注いでいる。さらに、市民や企業向けの講演会等を企画運営し地域の活性化に貢献している。また、研究成果による論文や学会発表なども多数で、研究活動が活発に実施されている。

(改善を要する点)

特になし

## (3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

本校では、本校の研究活動目的のもと、教員と技術職員が意欲的に研究活動を展開する研究体制となっている。本校の研究目的を達成させるために、地域共同テクノセンター、総合情報センター、図書メディアセンター及び教育研究技術支援センター等が整備され、研究を支援している。研究成果は、各種学会やセミナー、地域共同テクノセンターレポート等で公表している。研究の目的を達成するための研究体制と支援体制が整備されており、有効に機能している。

個々の教員の研究活動は活発に行われており、また地域共同テクノセンターの活動を通して卒業研究・専攻科研究テーマの公募、技術相談、市民サロンの開催等、地域社会への技術的貢献も厚く行われている。これらの研究成果は教育へ還元されると共に研究活動の活性化や地域からの共同研究と受託研究の数を増加させている。研究の目的に沿った活動の成果が上がっている。

本校の研究活動は学内及び学外から支援を受けて実施されており、各教員の研究活動は教員業績評価委員会では把握している。優秀な教員には表彰、研究費の適正な支援を行い、研究奨励教員を選考し研究活動を最優先させている。

校長は地域共同テクノセンターレポート，研究シーズ集からも各教員の研究活動を把握している。学校として外部資金獲得を奨励しており，地域共同テクノセンター及び企画室を中心に外部資金獲得に必要な情報提供や説明会等を開催することで支援している。

学校全体の研究活動の活性化に努め，学校として自己点検評価を実施し，外部評価を受け問題点の対策・改善を推進している。研究活動の実施状況や問題点を把握し，改善を図っていくための体制が整備され，機能している。

#### **(4) 目的の達成状況の判断**

目的の達成状況は良好である。